

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

言語研究センター共同研究

## 韓国語の漢語動詞の受身文のデータの整備

尹 亨 仁・文 彰 鶴

近年日本の大学における韓国語のレベルが非常に高くなっている中で、韓国語を教えている教員にとっても履修している学生にとっても非常に大きい問題の1つが韓国語の受身用法の獲得である。

韓国語の受身文は3つの方法（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類の受身文）、7つの接辞の付加によって作られるため、その派生は複雑な様相を呈している。とりわけ、日本語と漢語語幹を共有する漢語動詞の受身文

（Ⅲ類の受身文）の場合は、語幹に「-되다(doeda)」・「-받다(badda)」・「-당하다(danghada)」の3つの接辞が付加されうるが、この3つとも付加できる場合と1つしか付加できない場合がある。なので、漢語動詞によって受身接辞が異なるため、従来通り、典型的な動詞を用いて説明するだけではその違いが学生に十分に伝わらない。

本研究では、『デイリーコンサイス韓日・日韓

辞典中型版』(三省堂、2010)を参考に「頻度の高い韓国語の漢語動詞」500語のデータの整備を試みた。現在一部の結果は、2011年度の韓国語上級の授業で活用している。授業では、動詞リスト

の提示だけではなく、短文解釈、長文解釈を通して学生たちの理解を高めている。2012年度からは、さらに用例を工夫し、中級の授業でも活用できるようにする予定である。

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*